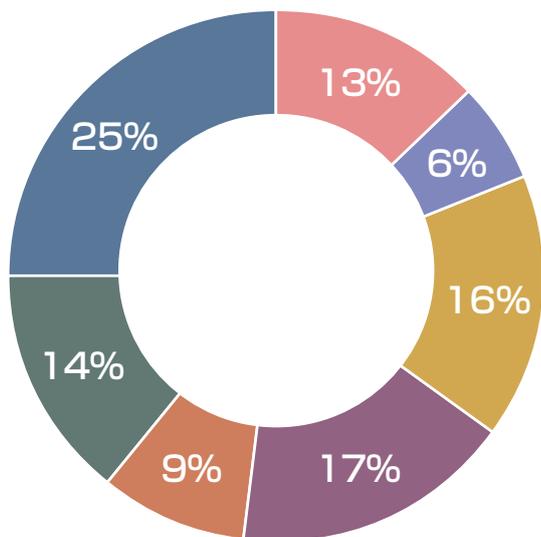


2021年度中間期 事業本部別営業純益*1 **6,341** 億円*2



デジタルサービス事業本部	883億円
法人・リテール事業本部	397億円
コーポレートバンキング事業本部	1,084億円
グローバルコマーシャルバンキング事業本部	1,096億円
受託財産事業本部	577億円
グローバルCIB事業本部	923億円
市場事業本部	1,626億円

注記 *1 管理計数。決算レートで算出

*2 本部・その他の計数を含む

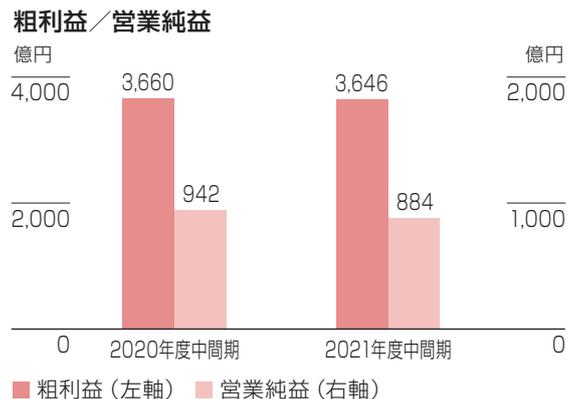
デジタルサービス事業本部

国内の個人・法人の非対面取引を中心とするお客さまを対象に、デジタルでの取引接点の拡大や利便性向上を通じたデジタル金融サービスを提供するとともに、全社のデジタルトランスフォーメーションを推進し、ビジネス基盤を強靱化します。

2021年度中間期の業績*1

新型コロナウイルスの影響を主因にコンシューマーファイナンスやカード収益が減少したことに加え、チャネル改革対応等で経費が増加したこともあり、粗利益、営業純益ともに前年同期比で減少しました。

*1 管理計数。現地通貨ベース



法人・リテール事業本部

国内の個人や法人のお客さまを対象に、貸出、資金決済、資産運用や相続・不動産など幅広い金融サービスの提供、事業・資産承継といったソリューション提供などを通じて、多様なニーズにグループ体でお応えしています。

2021年度中間期の業績*1

好調な資産運用ビジネスの収益や、不動産ビジネス・証券プライマリービジネスの収益が増加したことにより、粗利益、営業純益ともに前年同期比で増加しました。

*1 管理計数。現地通貨ベース

粗利益／営業純益



コーポレートバンキング事業本部

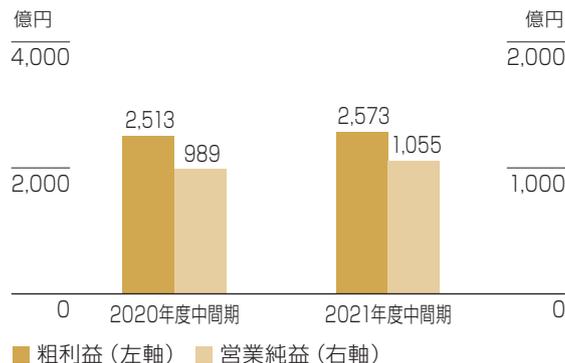
日系大企業のお客さまを対象に、貸出や資金決済、外国為替などのサービスや、M&Aや不動産関連ビジネスなどグループ各社の専門性を活かした総合的なソリューション提供を通じて、お客さまの企業価値向上に貢献しています。

2021年度中間期の業績*1

一部のビジネスでは新型コロナウイルスの影響を受けたものの、貸出利ざや改善による資金収益の増加や証券プライマリービジネスの増加により、粗利益、営業純益ともに前年同期比で増加しました。

*1 管理計数。現地通貨ベース

粗利益／営業純益



グローバルコマーシャルバンキング事業本部

出資先である米国のMUFGユニオンバンクやタイのクンシィ（アユタヤ銀行）、インドネシアのバンクダナモンなどのパートナーバンク*1を通じて、米国と東南アジアにて、現地の中小企業や個人のお客さま向けに金融サービスを提供しています。

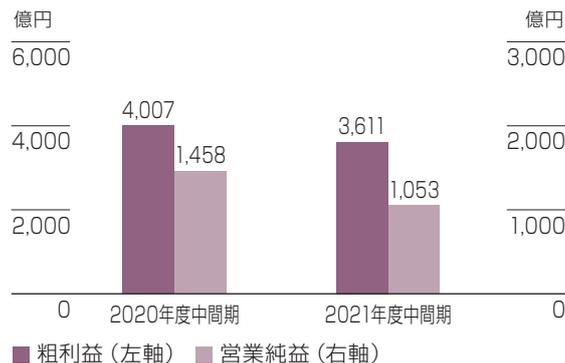
*1 当事業本部は、MUFGユニオンバンク、クンシィ（アユタヤ銀行）、バンクダナモン、ヴィエティンバンク、セキュリティバンク等を所管

2021年度中間期の業績*2

米国・タイにおける政策金利の低下およびインドネシアにおけるオートローン残高減少の影響を受け、粗利益、営業純益ともに前年同期比で減少しました。

*2 管理計数。現地通貨ベース

粗利益／営業純益



受託財産事業本部

資産運用（AM^{*1}）、資産管理（IS^{*2}）、年金の各事業において、高度かつ専門的なノウハウを活用したコンサルティングや、運用力と商品開発力の向上に取り組み、国内外のお客さまの多様なニーズにお応えしています。

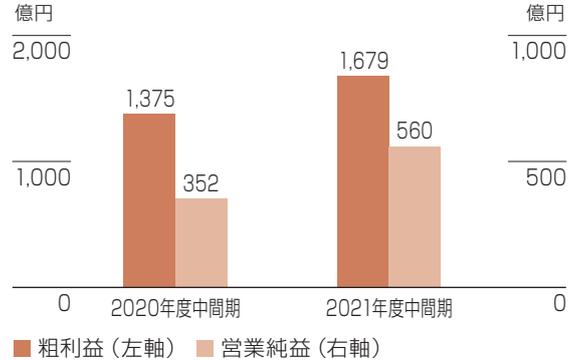
*1 Asset Management
*2 Investor Services

2021年度中間期の業績^{*3}

海外運用子会社の好調なパフォーマンスによる成功報酬に加え、グローバルISの複合サービスの提供に伴いファンドアドミニストレーションの収益等が増加し、粗利益、営業純益ともに前年同期比で増加しました。

*3 管理計数。現地通貨ベース

粗利益／営業純益



グローバルCIB事業本部

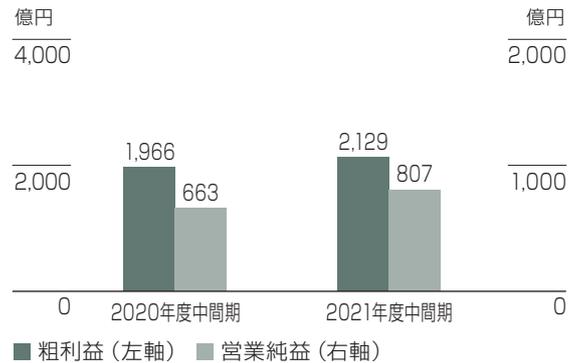
グローバル大企業のお客さまを対象に、商業銀行機能と証券機能を中核にグループ一体で付加価値の高いソリューションを提供するコーポレート&インベストメント・バンキング（CIB）ビジネスを展開しています。

2021年度中間期の業績^{*1}

貸出利ざや改善、機関投資家向けセキュアードファイナンス^{*2}やプロジェクトファイナンスの案件獲得により、粗利益、営業純益ともに前年同期比で増加しました。

*1 管理計数。現地通貨ベース
*2 ファンド投資資産等を担保とする貸出

粗利益／営業純益



市場事業本部

金利（債券）・為替・株式のセールス&トレーディング業務^{*1}を中心とする顧客向けビジネスと、MUFGの資産・負債や各種リスクを総合的に運営管理するトレジャリー業務^{*2}を主に担っています。

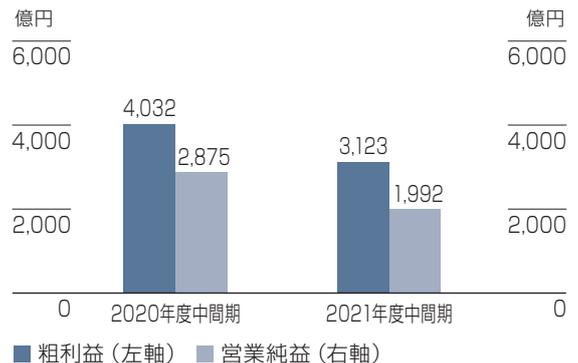
*1 為替・デリバティブなどの金融商品・ソリューションをお客さまに提供するセールス業務と、銀行間取引や取引所などで市場性商品の売買を行うトレーディング業務の総称
*2 貸出などの資産と預金などの負債に内在する資金流動性リスクや金利リスクなどを総合的に管理するALM運営やグローバル投資など

2021年度中間期の業績^{*3}

トレジャリー業務では前年の金利低下時に計上した債券売買益が剥落し、顧客ビジネスではフロー取引の減少や海外証券での損失があり、粗利益、営業純益ともに前年同期比で減少しました。

*3 管理計数。現地通貨ベース

粗利益／営業純益



中小企業のお客さまの成長・地域活性化への貢献

MUFGは、中小企業のお客さまの経営課題の解決に資するサービスの提供や地域活性化に向けた支援を通じて、日本経済の発展に金融面から貢献していきます。

中小企業のお客さまの成長への貢献

MUFGは、企業のビジネスステージ（成長段階）に応じて、さまざまなサービスを行っています。

創業期

■ 今後の成長が期待されるビジネスをサポート

Rise Up Festaは、新規性・独創性を有する事業や既存の事業領域を超えて新たな事業に取り組むベンチャー企業を対象に、MUFGのネットワークや経営支援などのノウハウを最大限活かし、中長期的なサポートを提供していくプログラムです。第8回となる2021年度は最優秀企業4社、優秀企業4社を選定し、支援しています。



第8回 Rise Up Festa

成長期

■ 成長企業戦略に向けた取り組み

事業への助言から、貸出やIPOなどのファイナンスニーズにいたるまで、グループの総力を結集し、今後の成長が見込まれるスタートアップ企業を支援しています。

「MUFG Digitalアクセラレータ」は、スタートアップ企業に対し、事業化に向けたステップをMUFGが全面的に支援するプログラムです。金融に限らず、MUFGとシナジーの高いさまざまな事業領域の企業を対象に、2021年は5社を選定し支援しました。



第5期「MUFG Digitalアクセラレータ」

2019年に設立した三菱UFJイノベーション・パートナーズは、国内外のフィンテック企業等、20社超に出資しており、出資先企業とMUFGとの協業が進展しています。2021年7月には1号ファンドの順調な成果を受けて総額200億円の2号ファンドを設立しました。ESG・SDGsなどに投資領域を拡大するとともに、MUFGのお客さまも含めたオープンイノベーションにもつなげていきます。

成熟期

■ 円滑な事業承継に向けたサポート

多くの中堅中小企業オーナーが抱える資産・事業承継の課題に対し、グループの機能と提携先ネットワークを活用しながらM&Aや相続、不動産、資産運用に関するご提案をグループ一体で行っています。

事業再生

専門部署による集中サポートや外部機関との連携など、さまざまなサポートを行っています。

地域経済の活性化への貢献

MUFGは、行政機関や地域金融機関との連携を通じて、地域経済の活性化や地域産業の育成につながる事業を支援しています。

■ ビジネスマッチングの機会の提供

新型コロナウイルス感染症拡大以降、お客さまの行動様式の変化に伴い、非対面での商談ニーズが増加しています。銀行では、お客さまの多岐にわたる事業戦略や経営課題解決をサポートするため、オンラインによるビジネスマッチングサービス「Everyday Business Link System～Bizry～」の提供を開始しました。デジタルの活用によりスピード感のある商談機会を提供するだけでなく、2022年1月からは、「AIによるマッチング候補先提示機能」を追加し、お客さまにさらなる利便性を提供しています。

■ 「ソーシャルローン」を活用した社会インフラ整備

MUFGは、金融サービスを通じて、災害に強いインフラ構築や地方創生等の実現に貢献しています。ソーシャルローンは、災害発生時の機能維持や渋滞対策、インフラの老朽化対策など、社会課題解決をめざすプロジェクトを対象とするローンです。具体的には、高速道路の新設・整備、都市再生・賃貸住宅・震災復興、地域医療の安定化などの案件を支援しています。



修繕工事中の高速道路

